令和8年度　　昭島市立拝島第二小学校　　学校経営重点計画（教育推進計画）計画表

学校教育目標	○よく考える子（知） ◎心ゆたかな子（情） ○元気な子（意）（体）	ビジョン	【目指す学校像】	○「子供の成長」を教育活動の中核に置き、連携・協働する学校　○「チーム」一丸で教育活動を推進する学校
			【目指す児童・生徒像】	○自らの人生（運命）を自らの力で切り拓き、これからの社会の創造を担える児童～グローバルに考え、ローカルに実践する子～
			【目指す教師像】	○「チーム拝二」の一員として、自らすすんで学び、高め合い、協働して職務を遂行する教師　○子供のよさや可能性を伸ばせる教師集団

領域	中期経営目標（3年間）	短期経営目標（1年間）	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	（知） 自ら学び考え判断し、協働して問題を解決することができる児童の育成	日々の授業を充実させ、全国学力・学習状況調査の平均正答率の引き上げを図る。	「授業改善推進プラン」を基に、児童が自身の学びの成果を実感できるように指導する。	4 8割以上の教職員が、「授業改善推進プラン」に基づく指導を行った。 3 7割以上の教職員が、「授業改善推進プラン」に基づく指導を行った。 2 6割以上の教職員が、「授業改善推進プラン」に基づく指導を行った。 1 6割未満の教職員が、「授業改善推進プラン」に基づく指導を行った。		4 学力調査の平均正答率が国比OP 3 学力調査の平均正答率が国比−1P 2 学力調査の平均正答率が国比−2P 1 学力調査の平均正答率が国比−3P					
		言葉の力で獲得した知識を生かして、自分の考えや思いを論理的に表現できる児童を育成する。	指導計画のPDCAサイクル化を図り、児童が考えを深め、表現する場を意図的・計画的に設定する。	4 8割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。 3 7割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。 2 6割以上の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。 1 6割未満の教職員が、児童が考えを深め表現する場の設定を計画的に行った。		4 「思考・判断・表現」の評価B以上70%以上 3 「思考・判断・表現」の評価B以上60%以上 2 「思考・判断・表現」の評価B以上50%以上 1 「思考・判断・表現」の評価B以上50%未満					
		学んだことを日常生活に生かしたり、自分の周りの社会に役立てたりしようとする児童を育成する。	各教科、特別活動、特別の教科　道徳を中心に、教育活動全体を通して児童が自己分析で課題を設定し、自ら挑戦できる場を設定する。	4 8割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。 3 7割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。 2 6割以上の教職員が、授業実践における振り返りを行った。 1 6割未満の教職員が、授業実践における振り返りを行った。		4 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童70%以上 3 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童60%以上 2 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%以上 1 授業で学んだことを生活や社会に生かそうとする児童50%未満					
豊かな心	（情） 自らの良さを見つめ、他者を尊重し、共により良く生きようとする児童の育成	不登校児童を減らし、全ての児童が安心して登校できる学校にする。	①不登校アセスメントの実施 ②温かい学級づくりによる不登校の未然防止 ③校内委員会を中心とした学校組織としての対応	4 8割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が、不登校対策に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が、不登校対策に取り組んだ。		4 不登校の出現回数2割減少 3 不登校の出現回数1割減少 2 不登校の出現回数増減なし 1 不登校の出現回数増加					
		児童の自己有用感、思いやりや協調性、コミュニケーション能力の向上を図る。	①学校行事での活躍の場の設定 ②異学年交流の実施 ③学級会の計画的な実施	4 8割以上の教職員が、異学年交流・学級会を行った。 3 7割以上の教職員が、異学年交流・学級会を行った。 2 6割以上の教職員が、異学年交流・学級会を行った。 1 6割未満の教職員が、異学年交流・学級会を行った。		4 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童70%以上 3 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童60%以上 2 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%以上 1 自分たちで学級・学校を創っていると感じる児童50%未満					
		学校の決まりを守る風土を創り上げる。	学校の決まりの意味・意義を理解させ、守らせる。	4 8割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が共通理解をもって、生活指導に取り組んだ。		4 学校のきまりを守っていると回答する児童70%以上 3 学校のきまりを守っていると回答する児童60%以上 2 学校のきまりを守っていると回答する児童50%以上 1 学校のきまりを守っていると回答する児童50%未満					
健やかな体	（体） 自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる児童の育成	日々の授業の充実を基に、児童に運動の楽しさを味わわせ、体育が好きな児童を増やす。	体育研修を実施し、体育科の授業の充実を図る。体力向上旬間を設定する。	4 8割以上の教職員が、体育研修を活用した指導を行った。 3 7割以上の教職員が、体育研修を活用した指導を行った。 2 6割以上の教職員が、体育研修を活用した指導を行った。 1 6割未満の教職員が、体育研修を活用した指導を行った。		4 運動が好きと回答する児童70%以上 3 運動が好きと回答する児童60%以上 2 運動が好きと回答する児童50%以上 1 運動が好きと回答する児童50%未満					
		児童の課題に応じた様々な運動に親しませる場を設定し、運動能力の向上を図る。	体力調査の結果に基づく課題分析・解決策の共通理解と共通実践をする。コオーディネーショントレーニングを実施する。	4 8割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 3 7割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 2 6割以上の教職員が、体力向上のための取組を実施した。 1 6割未満の教職員が、体力向上のための取組を実施した。		4 体力調査の結果を都平均以上にする。 3 体力調査の結果を都平均にする。 2 体力調査の結果を−1%にとどめる。 1 体力調査の結果を−2%にとどめる。					
		家庭と連携して、児童の基本的な生活習慣の向上を目指す。	「元気アップガイドブック」や「すっきりカード」などを計画的に活用し、児童自身が生活改善の大切さを意識し実感できるようにする。	4 8割以上の教職員が、生活習慣向上のための取組を行った。 3 7割以上の教職員が、生活習慣向上のための取組を行った。 2 6割以上の教職員が、生活習慣向上のための取組を行った。 1 6割未満の教職員が、生活習慣向上のための取組を行った。		4 生活改善を実感する児童70%以上 3 生活改善を実感する児童60%以上 2 生活改善を実感する児童50%以上 1 生活改善を実感する児童50%未満					
輝く未来	（意） 自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げることができる児童の育成	自ら学び、自ら考える力やより良く課題を解決し、自分の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。	総合的な学習の時間や各教科等の授業において、教科横断的・探究的な学習の充実を図る。	4 8割以上の教職員が、探究的な学習の授業実践に取り組んだ。 3 7割以上の教職員が、探究的な学習の授業実践に取り組んだ。 2 6割以上の教職員が、探究的な学習の授業実践に取り組んだ。 1 6割未満の教職員が、探究的な学習の授業実践に取り組んだ。		4 主体的に学習していると回答する児童70%以上 3 主体的に学習していると回答する児童60%以上 2 主体的に学習していると回答する児童50%以上 1 主体的に学習していると回答する児童50%未満					
		●SDGsの達成のために社会を変革する主体者として、家庭生活から変えていこうとする態度を育てる。 ●地域人材を活用し、人との関わりの中で学ぶ機会を充実させる。	●SDGsの達成のために、家庭生活を実際に改善しようと行動に移すことができる児童を育成する。 ●地域人材を活用した体験活動を実施し、社会貢献しようと考える児童を育成する。	4 8割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 3 7割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 2 6割以上の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。 1 6割未満の教職員が、地域人材を活用した体験活動を実施した。		4 社会貢献しようと考える児童70%以上 3 社会貢献をしようと考える児童60%以上 2 社会貢献をしようと考える児童50%以上 1 社会貢献をしようと考える児童50%未満					
		社会の多様な課題への関心・意欲を高め、自らの将来について考える児童を育成する。	昭島市版「キャリアルバム」を活用して、児童が自らの将来に、夢をもてるように指導する。	4 8割以上の教職員が、キャリアルバムを活用した指導を行った。 3 7割以上の教職員が、キャリアルバムを活用した指導を行った。 2 6割以上の教職員が、キャリアルバムを活用した指導を行った。 1 6割未満の教職員が、キャリアルバムを活用した指導を行った。		4 将来への夢や希望がもてたと回答する児童70%以上 3 将来への夢や希望がもてたと回答する児童60%以上 2 将来への夢や希望がもてたと回答する児童50%以上 1 将来への夢や希望がもてたと回答する児童50%未満					
働き方改革	○教職員の月間平均在校等時間の15%削減（前年度比） ○校務の完全ペーパーレス化と情報のクラウド一元管理 ○ICTスキルの標準化と知見の共有文化の醸成	○定時退勤日およびICT活用強化月間の設定 ○校務支援システム・チャットツールの日常化 ○校内ワークフローのデジタル移行率50%達成	勤務時間の削減と、業務効率のために、ICT活用促進を図る。	4 8割以上の教職員が、業務削減とICT活用で業務効率化を実現した。 3 7割以上の教職員が、業務削減とICT活用で業務効率化を実現した。 2 6割以上の教職員が、業務削減とICT活用で業務効率化を実現した。 1 6割未満の教職員が、業務削減とICT活用で業務効率化を実現した。		4 月間平均在校時間が定時勤務時間比10時間未満の教員が70%以上 3 月間平均在校時間が定時勤務時間比10時間未満の教員が60%以上 2 月間平均在校時間が定時勤務時間比10時間未満の教員が50%以上 1 月間平均在校時間が定時勤務時間比10時間未満の教員が50%未満					